

脳神経外科手術後における鎮痛薬使用状況の調査

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

当院では、脳神経外科手術を受けられた患者さまの診療情報をもとに、術後の痛みの治療方法をより良くするための研究を行っています。

この研究では、2023年1月から2025年3月の間に当院で特定の脳神経外科手術を受けた方のうち、痛み止めを使用された方を対象としています。

脳神経外科手術後の痛みは、患者さまの回復を遅らせたり、不安や混乱を引き起こしたりすることがあります。また、痛みが強いと血圧が上がったり、頭の中の圧力が高くなったりして、体に負担がかかることがあります。そのため、手術後の早い段階で痛みをしっかりと抑えることは、安心して回復していただくためにとても大切です。

現在は、アセトアミノフェンやNSAIDsという痛み止めがよく使われていますが、これだけでは痛みが十分に取れない方もいらっしゃいます。

そこで、より効果的な痛みのコントロール方法を見つけるためにフェンタニルという術後疼痛管理に有効と位置付けられているオピオイド鎮痛薬を使った場合と使わなかった場合で、痛みの強さや追加の痛み止めの使用、副作用（呼吸の変化、吐き気、せん妄など）の有無を比較します。

研究の対象となる方

2023年1月～2025年3月に当院脳神経外科で施行した予定手術（内頸動脈血栓内膜摘出術、脳血管バイパス術、脳動脈瘤頸部クリッピング術、頭蓋内微小血管減圧術）を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、鎮痛薬の使用状況など

使用開始予定日：2025年5月16日

研究予定期間

2025年5月16日～2027年3月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 薬剤部 高野佳奈子

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 薬剤部 高野佳奈子 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
---------------	--